

[公益社団法人日本語教育学会 2020 年度第 2 回支部集会（北海道大学，2020. 7. 11.）ポスター発表要旨]

※新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止<2020 年 6 月 15 日発表成立>

本発表は予稿集原稿をもって発表成立とします。予稿集は別途[マイページ](#)よりご購入ください。

日本語学習者に対する動詞評価課題の一考察

— 単語親密度の視点より —

大庭理恵子・宮本恵美・馬場良二

我々は、日本語学習者を対象に動詞の習得に対して「聴覚的把持力」，「単語親密度」，「意味用法」などを考慮した教材・習得プログラムの教育効果を明らかにすることを目的として研究を行っている。今回は、日本語学習者 15 名（中国語母語話者 9 名，韓国語母語話者 6 名）に対し，自動詞（15 語）・他動詞（15 語）の親密度別（高・中・低）の問題文を用いた評価課題を実施し，その成績結果を分析した。結果，高親密度語の正答率が最も高い結果を示し，次いで，中親密度語，低親密度の順に正答率が低下する結果となり，高親密度語と低親密度語の比較では，正答率に有意な差が認められた（ $p < 0.01$ ）。この結果から，親密度の違いによって習得のしやすさに違いがあること，また，より高親密度の用法が習得しやすい可能性が示唆された。本研究は，科学研究費補助金基盤（c）（課題番号 18K00729）の助成を受けたものである。

（大庭—熊本大学，宮本—熊本保健科学大学，馬場良二—湖東カレッジ）